



しののめYMCAこども園 園だより

2018年度 12月号

発行者：こども園園長 堀江和広

聖句 「互いに愛し合いなさい」

わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい。

これがわたしの掟である。

12月聖句 「学者たちはその星を見て喜びにあふれた」

マタイによる福音書 2章 10節

先週、こども園近くのマンションから幼児が転落し、命を落とす悲しい事故が起きました。ご両親、ご親族の皆様方のお気持ちを察すると、本当に心が痛みます。心穏やかに平安が訪れる事を願うばかりです。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

11月に入り気温も平年並みとなり、クリスマスを迎える雰囲気になってきました。各学年ともアドベント礼拝がはじまり、イエス様の誕生を心待ちにしています。

入園したばかりの年少さんにとっては、聖書のお話はとても不思議で、むずかしい話ですが、礼拝や先生たちのお話を通じて、目に見えないものを信じる気持ちや、受け容れる気持ちが芽生えていきます。そして心もからだも、心優しいお兄さん、お姉さんへと成長していくのです。

毎年、年長さんはメッセンジャーとして生誕劇を演じますが、今年の年長さんも入園した当初は、同じように聖書のお話が不思議で、むずかしいと感じていたと思います。

生誕劇を演じるには、たくさんの役が必要です。先日その役を決める時間がありました。それぞれに演じたい役がありますが、希望通りの役につける園児も居れば、希望が重なってしまう園児もいます。どうするのだろうと見ていると、重なってしまった園児同士で、どうしたら良いのかを話し合っていました。“何故その役をやりたいのか？”“セリフはどの位有るのだろう？”いろいろな話合いがなされ、お互いに納得して配役が決まりました。役を譲った園児も居ます。また話合いの中で、自分には、“この役より違う役の方が合うのかもしれない”と感じて、最初の役を変更して、別の役についた園児も居ます。全ての役が大切に重要です。誰ひとり欠けてもこの生誕劇の成功はあり得ないと思います。

ひとつの肢体が病めば、肢体全体がその痛みを分かち合います。ひとつの肢体が喜べば、全体の肢体が共に喜びます。心を合わせ今年も素晴らしい生誕劇を演じてくれると信じています。

園長 堀江和広